



CONTENTS

戦略的個人研究費の審査を終えて	1
お知らせ	2
オンラインジャーナル『人間生活文化研究』	2
協賛企業	4
人間生活文化研究所研究費助成事業関連カレンダー	4

〈大妻女子大学人間生活文化研究所〉

戦略的個人研究費の審査を終えて

この度、平成27年度大妻女子大学戦略的個人研究費の審査を担当した。多様な分野の申請書を多数拝見して、判断に迷うことが多かったが、分野によって判断の公平さが損なわれないよう留意した。以下若干の所見を述べるが、このような研究費の申請をされる方の参考になれば幸いである。

評定の基準は科学研究費助成事業書面審査に準拠している。具体的には(1)研究課題の学術的重要性・妥当性及び波及効果、(2)研究計画・方法の妥当性、(3)研究課題の独創性及び革新性、の3評定要素につき、それぞれ「優れている」から「不十分である」までを4段階で評定する。

評定するためにはその手がかりが必要である。手がかりがなければ、不十分と判断せざるを得ない。手がかりとは論理的で十分な記述、説明である。紙幅を十分活用し、審査員に手がかりを与えて欲しい。記述が論理的ではない、断片的、そもそも記述が少なく申請書がスカスカであるといったことでは内容の理解ができず、必要な手がかりは得られない。

りは得られない。

申請書の説明文に参考文献をたくさんつけておられる方もいた。先行研究、関連研究を挙げておられるのだろうと思うが、私はその方面の専門家ではないので、文献名だけ付けられても参考にならない。必要な内容がかみ砕いて書かれていなければ、役に立たない。

科研費とは異なり、このような学内の研究費申請では、少数の審査員が多分野の申請書を読むことになる。当然、審査員は申請書を書いた人とは専門が異なる場合が多い。専門分野外の人を読んででもなるほど、と思ってくれるように書く必要がある。例えば専門分野外であっても、評定の手がかりが論理的に記載されていれば、審査員は高い評点をつける。

科研費に応募したものの残念ながら採択にならなかったものと、今回初めて申請書を書いたものでは、一般的に言って科研費に応募した申請書の方がよく書けていた。科研費の申請書を書く段階で内容を良く推敲されたためと思われる。

自分とは専門が違う研究者がこの申請書を読んで理解ができるか、自分の意図が伝わるか、3つの評定要素が盛り込まれ、審査員の判定の手がかりになっているか、という事を自分の専門とは少し離れた人、例えば秘書や家族に見てもらい、コメントを得るようなステップを踏めば、独りよがりではない、説得力のある申請書ができるのではないかと考える。申請書にも査読が必要である。



ミャンマー連邦共和国
教育大臣顧問
日本評価学会顧問
前東京工業大学副学長

牟田 博光

お知らせ

■ 中国政府派遣研究員として烏雲格日勒さんが来日しました

中国政府派遣研究員として来日した烏雲格日勒さんは、現職の内モンゴ師範大学体育学院教授。当研究所にて平成28年11月中旬まで健康教育についての研究を行います。

■ 本学の科研費新規採択件数「家政・生活学一般」で全国1位！！

過去3年(平成25年～27年度)の科学研究費補助金細目別新規採択累計数で、本学は細目「家政・生活学一般」において全国1位となりました。また、平成27年度の本学の採択件数は、新規・継続分合わせて38件、配分額は70,850千円、私立大学で95位[※]でした。※『教育学術新聞』平成27年10月7日

■ 本研究所「大学院生研究助成」が変わります！

本研究所協賛企業からの支援により運営される「大学院生研究助成」の助成金給付方法が変更され、平成28年度からは、奨学金のように採択額が一括で採択者に支給されるようになります。

それにより、採択者の経理事務の負担が軽減されます。公募要項等については、平成28年3月に公表する予定です。申請書類の提出期限等にご注意願います。

オンラインジャーナル『人間生活文化研究:International Journal of Human Culture Studies』



『人間生活文化研究』は、2012年6月に人間生活文化研究所が創刊したオンラインジャーナルです。

本誌では「人間の生活と文化」に関わる研究論文の投稿を随時募集し、これまでに約100編の論文を掲載してきました。トピックは、被服学、食物学、児童学、ライフデザイン学、日本文学、英文学、コミュニケーション文化学、社会情報学、人間関係学、人間福祉学、比較文化学など広範囲に渡ります。

投稿者の資格に制限はありません。多言語対応、投稿無料で、査読を経た論文は迅速に掲載されます。また、J-STAGEに搭載されていることから、論文が世界中の人の目に触れる機会が格段に多くなります。



≫ <http://journal.otsuma.ac.jp/>

投稿無料

随時募集

投稿資格制限なし

原著論文・短報は査読あり

字数制限なし

No.25(2015) 掲載論文一覧

▶ 原著論文

論 題	著 者
心理学教育を通じた社会人基礎力の育成	西河 正行(人間関係学部)ほか
Ways of changing students' behavior towards healthy school environment: Experiences from an action research	Lila Bahadur Vishwakarma (Kallery Secondary School, Nepal)
ラットにおけるヘキサクロロベンゼンの母親体内蓄積と母乳移行に対する自由摂取飼料の脂質レベルの影響	酒本 光子(大学院)ほか
Artisanal and small-scale gold mining in Myanmar: Preliminary research for environmental mercury contamination	Takahito Osawa (Japan Atomic Energy Agency) et al.
児童期からの首輪装着は成熟後の形態と体構にどのような影響を及ぼすのかーカヤン人女性の高径データの分析からー	下田 敦子(人間生活文化研究所)ほか

▶ 短 報

論 題	著 者
児童英語教育におけるスキャフォールディングの前提	渡邊 万里子(大学院)

▶ 報 告

論 題	著 者
メディア実践を通じた言語再活性化ーハワイ語ラジオ番組カ・レオ・ハワイはどのような番組だったのかー	古川 敏明(文学部)

論 題	著 者
文系は本当に不要なのか ―「文」の字義からの再確認―	松村 茂樹(文学部)
最新の情報処理技術を活用した手作り教材の制作と教育実践 ―国内外の共同研究者との協働の取り組み―	生田 茂(社会情報学部)ほか
一山一寧研究述評	霍 耀林(井岡山大学外国語学院, 中国)ほか
ミュンヘン市における市民参加仲介の仕組み	伊藤 美登里(人間関係学部)
金融・経済時系列データを用いた知識発見とその応用 ―金融時系列データのVC相関解析―	落合 友四郎(社会情報学部)
ハワイ語新聞への学際的アプローチ ―日本・日本人・日系人関連記事の分析―	古川 敏明(文学部)
検閲制度とジェンダー	内藤 千珠子(文学部)
根粒菌感染によるサイトカニン関連遺伝子の発現解析	手呂内 伸之(大学院)ほか
自閉症スペクトラム児と保護者の関係を支えるRDIの検討	高橋 ゆう子(家政学部)
新規ポリアミノ酸生産菌の探索	石井 義孝(社会情報学部)ほか
子どものレジリエンス ―プレイセラピーの過程から―	九間 早和子(大学院)
Social mobilization for school sanitation and hygiene education	Daw Khin Thet Maw (Ministry of Education, Myanmar)
発達障害児支援に携わる学生ボランティアが抱える困難について ―学生への支援策の検討に向けて―	伊藤 里恵(大学院)
現代青年のアサーション獲得におけるロール・プレイングの効果	堀 安由美(大学院)
和服の柄合わせに関する研究	渡部 栞(大学院)
ローカル・ソフトパワーとしてのマンガ ―鳥取県の事例を中心として―	小谷 敏(人間関係学部)
ハイブリッド文法 ―軽動詞 <i>have / give</i> の事例―	勝部 愛美(大学院)
日本のドラマにおける謝罪表現について ―ベトナム語母語話者の観点から―	グエン ティー ホア ミー(大学院)
スーパービジョンを通してのカウンセラーの共有不全経験についての検討	樽澤 百合(大学院)
対人関係に不安を持つ人にとっての被拒絶体験	堀江 智美(大学院)
いじめ発生における加害者の環境的要因及び心理的要因についての実証的研究	大嶋 千尋(大学院)
投映法としての「星と波描画テスト」の性質 ―11年後の追跡調査―	香月 菜々子(人間関係学部)
学習習熟度別学級編成における高校生の自己受容感と学級適応感の関連性について(2)	小川 響(大学院)
脂肪細胞の成熟過程におけるミトコンドリアの役割 ―脂肪滴とミトコンドリアの可視化―	長谷川 千織(大学院)ほか
日本文学科「基礎ゼミ」の試み	五味淵 典嗣(文学部)ほか
平安貴族衣装の帔 ―男性着用について―	鹿野 美由紀(大学院)
哀傷歌における『源氏物語』摂取 ―『続詞花和歌集』についての考察―	君嶋 亜紀(文学部)
臨床心理士が喪失体験から回復するプロセスの研究	西垣 綾峰(大学院)ほか
心理療法場面におけるセラピストの感情コンピテンスの発達過程	鈴木 理絵(大学院)ほか
インターネット利用におけるリスク要因 ―メディアリテラシー教育プログラムの開発―	市川 博(家政学部)ほか
ICT時代における教科「情報」のあり方 ―教科開設後10年の課題と今後の方向性―	川合 宏之(流通科学大学)
なぜ「中国の戦線」を問うのか ―日本における戦争記憶の現在形―	五味淵 典嗣(文学部)

▶ 資 料

論 題	著 者
大麦の摂取が食餌性肥満マウスのGLP-1分泌に及ぼす影響	加藤 美智子(人間生活文化研究所)ほか
校外実習における給食運営に関するカリキュラムの検討	登坂 三紀夫(大学院)ほか
加工昆虫による遺伝性糖尿病マウスの脂質代謝に及ぼす影響	山岸 あづみ(大学院)ほか
ミセル性リン酸カルシウムがラットの生体利用性に及ぼす影響	山中 千恵美(人間生活文化研究所)ほか
肥満モデルマウスを用いた慢性炎症を予防する食事成分の効果に関する研究	青江 誠一郎(家政学部)ほか
メタボリックシンドロームモデルマウスを用いた高血圧症の予防効果の評価法の確立と食事因子の評価	青江 誠一郎(家政学部)
幼児の保護者への食教育のための予備的研究	吉田 真知子(大学院)ほか
資料紹介・大妻女子大学図書館蔵 古活字平仮名三巻本『宝物集』	小井土 守敏(文学部)
リアルオプション・アプローチによるプロスポーツチームの価値評価手法	寺石 雅英(キャリア教育センター)

▶ オンラインジャーナルの最新号およびバックナンバーはホームページよりご覧いただけます。≫ <http://journal.otsuma.ac.jp/list.html>



科研費申請について情報を発信しています。
(学内者向け)



学内の研究費助成事業に関する情報を発信しています。



未刊行の研究資料などを電子書籍として出版できます。

協賛企業

人間生活文化研究所の事業は、多くの企業の皆様からご支援いただいています。

前田建設工業株式会社
鹿島建設株式会社
清水建設株式会社
株式会社大林組
ダイダン株式会社
株式会社三井住友銀行

株式会社九電工
山崎製パン株式会社
株式会社オンワードホールディングス
三菱地所株式会社
株式会社岡村製作所
富士ゼロックス株式会社

株式会社三越伊勢丹プロパティ・デザイン
キューピー株式会社
東京ケータリング株式会社
株式会社内田洋行

(順不同、2015年12月31日現在)

人間生活文化研究所 研究費助成事業関連 カレンダー

2016年

	科研費(日本学術振興会)	戦略的個人研究費	共同研究プロジェクト	研究員研究助成	大学院生研究助成(A)(B)
	1.6 冬季休業終了		1.6 冬季休業終了		
1月			1.7 予算執行伝票等の受付再開	1.8 「旅費」「謝金」に関わる計画書、稟議書の提出締切 1.8 平成28年度研究員願書受付開始(1.22迄)	
			1.29 「旅費」の予算執行伝票等提出締切(17時迄)		
2月			2.1 平成28年度応募受付開始(2.22迄) 2.15 予算執行伝票等提出締切(17時迄)	2.12 予算執行伝票等提出締切(17時迄)	
3月		3.18 「収支等実施報告書」提出締切		3.10 「収支等実施報告書」提出締切	3.10 (A)「収支等実施報告書」提出締切 3.15 (B)「収支等実施報告書」提出締切 中旬頃 平成28年度公募情報公開(応募受付は5月)
4月	末頃 平成28年度「研究活動スタート支援」応募学内締切(昨年度は4.30)	初旬 平成28年度応募受付開始(下旬頃迄) 4.18 平成27年度採択者「研究実施報告書」提出締切	初旬 平成28年度採択者内定(中旬までに採択決定通知授与式を開催予定)		

※ このカレンダーについてのお問い合わせ先は、☎03-5275-6047(千代田キャンパス内線5650)です。



大妻女子大学人間生活文化研究所

〒102-8357 東京都千代田区三番町12番地

大妻女子大学図書館棟6階

Tel: 03-5275-6047 Fax: 03-3222-1928 E-mail: info@o-ihcs.com

HP: <http://www.ihcs.otsuma.ac.jp/>

▶ ニュースレターの最新号およびバックナンバーはホームページよりご覧いただけます。